

# 脱短命県へ受診、禁煙推進… 前

## 産学官金が成果発表 弘

弘前大学、県、弘前市は29日、ホテルナクアシティ弘前で「弘前大学COIへルシーエイジング・イノベーションサミット」を開いた。産学官金の関係者が会社や地域で取り組んできた健康事業の成果を発表し、短命県脱却に向けて意見を交わした。

弘大などが弘前市岩木地区で行っている「岩木健康増進プロジェクト」で得たビッグデータを活用し、脳

疾患の予防や早期治療に役立てる産学官共同研究は2013年、国の革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)に採択されている。サミットは同プログラムに関連して開かれ、昨年に続き2回目。約500人が参加した。サミットでは、弘前大学院医学研究科長の中路重之教授が岩木プロジェクトの成果を報告。ビフィズス菌が過敏性腸症候群に効果的

であることなどを説明した。

みちのく銀行の稲庭勉人事部長は「精密検査の受診を勧奨することで、受診率



が35% (12年度) から92% (14年度) へ大幅に向上した」と報告。さらに「行内を全面禁煙にした結果、40歳以上の喫煙者の割合が29・2% (12年度) から21・7% (15年度) に改善した」と語った。ほかに、弘前市の北星交通が出勤時に行っている血圧測定やストレッチなどを紹介した。

また、楽天の担当者は弘大と協力し、塩、油、糖を抑え高血圧を予防する「3

短命県返上に向け、産学官金の関係者が意見を交わしたサミット

Dレシビ」を全国的に募集すると発表した。募集は3月の見込み。

パネルディスカッションには産学官金の15人が登壇。中路教授は、社会に研

究成果をどう組み込んでいくかについて、「産学官金全ての活動を充実させることに尽きる。これからも愚直にやっていきたい」と話した。(佐藤彩乃)